スポーツ活動の現状と問題
—中都市の事例—

小　原　信　幸

Ⅰ はじめに

この小論は，社会体育の主たる内容であるスポーツが，地域住民の生活内容の一部として，どのような位置にあるかを検討しようとするものである。社会体育を盛んにするには，その活動を行ないやすいようにしなければならない。スポーツの成立する条件には，余暇，施設や用具，技術などがあげられるほか，仲間やグループが必要であるとともに，体育やスポーツは，自主的活動であり，活動者自体の社会的，経済的な環境，興味，関心，身体的条件などがあげられる。したがって，地域住民のスポーツへの参加の仕方やレベルは，性，年令，学歴や職業，さらに働いている職場の規模などから異ってくるが，その地域の人口構造，生活構造，さらに地域のスポーツ人口の構造に適合したものでなければならない。そのために，その進め方は，地域によって一様に論ぜられる性質のものではない。ここでは現実に行なわれている社会体育の進め方について，とくに中都市の段階において検討し，今後の社会体育の進歩，改善に必要な手がかりを得ようとしたものである。

調査は，岡山県高梁市（但し旧高梁町）において，次の要領により行なった。

1. 期日　第Ⅰ次調査　昭和41年8月
　　第Ⅱ次調査　昭和42年4月
2. 対象　個人調査に当っては，住民票より1/13の無作為に抽出（児童，生徒，学生を除いて）した。
3. 内容　第Ⅰ次調査　地域関係の資料収集。第Ⅱ次調査　個人に対しては次の項目により，質問紙を用いた。1. 生活と生活意識，2. 健康，3. 運動とスポーツ，4. 社会体育振興について
4. 方法　文献，資料のほかに，現地調査に当っては質問紙法，面接を用いた。

Ⅱ 地域の概観

1. 地域の特性

(1) 沿革・地勢

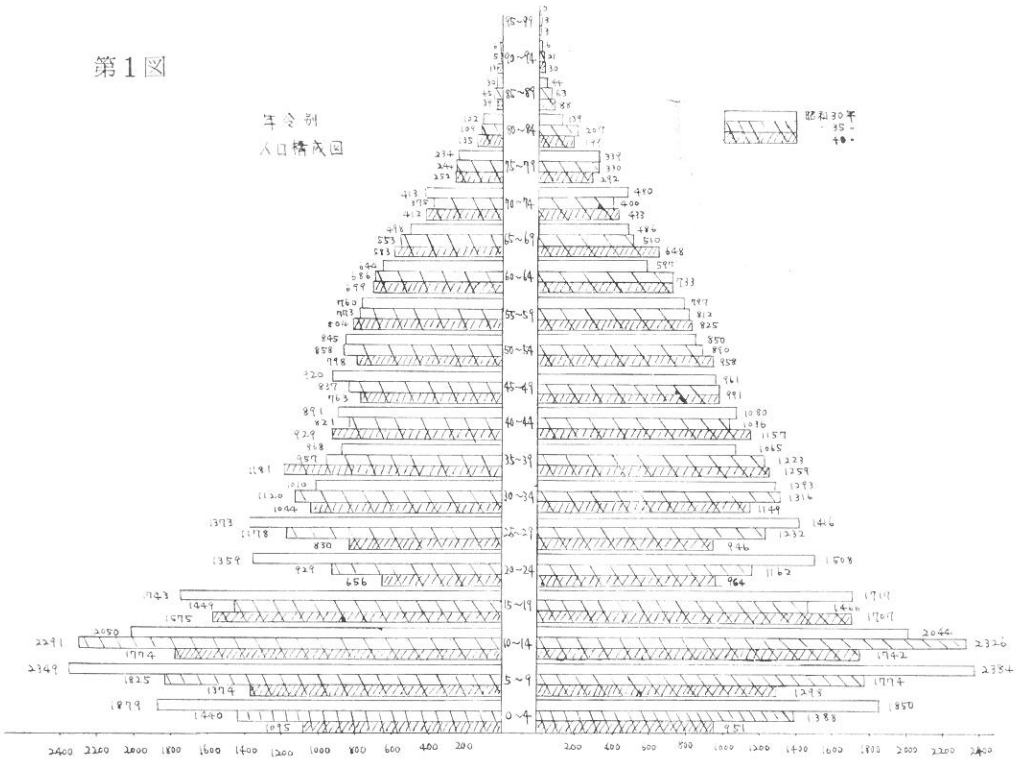
高梁市では，今から700年前に松山城を築き，昭和4年6月10日高梁町と松山村を合併，さらに昭和29年5月1日高梁町と10カ村が合併し市制を施行し，続いて昭和30年2月1日上房郡中井村が編入合併し，総面積228.9㎢，人口密度136.8人の中都市で，岡山県の中西部に位置し，三大河川の一つ高梁川を持っているが，岡南産業都市に程遠く，一応隔離された地域ともいえよう。市は周囲を山で囲まれ，市の東北の山頂に松山城を残し，野ザルで有名な自然公園臥牛山をもち，総面積の50%が山林で，耕地はわずか10%である。

気候は，瀬戸内式気候に属しながらも，しばしば日本海側の影響を受け，山間部の特徴としてのしぐれがある。平均温度は18度，最高（7～8月）39度，最低（1～2月）−12度と寒暖の差がいちじるしい。

(2) 人口・産業

人口（旧高梁町）は，約31,000名で，最近の傾向として，とくに20～24才の年令層の男・女の減少が顕著である。これは，進学・就職などによる京阪神・東京方面への流出と考えられる。(図1)

第1図

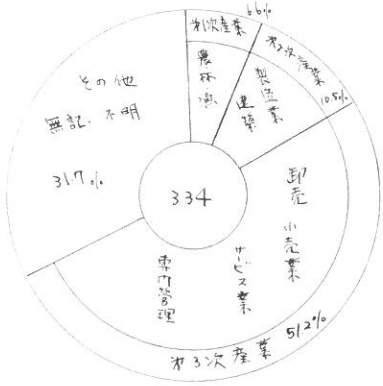


産業構造(図2)は，第Ⅲ次産業優位の地域で，有職者の半数は市内に職場をもち，その規模は比較的小さいために，家族中心の生活を営んでいる。なお労働力の供給源に関してみれば市内は勿論，伯備線を利用してかなり広い範囲にまで広がっている。

種別(図3)からみれば，第Ⅰ次産業は，わずか6.6%で，第Ⅲ次産業が全体の51.2%と半数を占め，その大部分は「卸売・小売業」「サービス業」である。また第Ⅱ次産業は10.5%で「製造業」「建築業」が見られる。

第2図　職業別人口構成

第3図　産業別世帯構造



昭和41年度高梁市体育行事実績概要

高梁市教育委員会　高梁市体育指導委員連絡協議会

行事名	種目内容	期日期間	会場	対象	参加人員	指導者	備考
体育指導委員会議		41. 4. 6	市民会館	委員	11		昭和40年度行事の経過と反省　41年度行事計画と予算
第1回歩け歩け運動	歩行活動，文化財見学	41. 4.10	市街地周辺一周コース7km	一般　限定なし	40	体育指導委員　徒歩の会リーダー	
スポーツ教室民踊コース	民踊	毎第2月第4火曜日	市民会館第1会議室	一般婦人	1回平均30	〃　高梁北婦人会役員	
第2回歩け歩け運動	歩行活動	41. 5. 8	方谷橋―肉谷橋―八重竜神社10.2km	一般	32	〃　徒歩の会リーダー	
体育指導委員会議		41. 6. 2		委員	12		会長　副会長選任他
第3回歩け歩け運動	歩行活動	41. 6.12	神崎―玉川橋11km	一般　限定なし	35	〃　〃	
野外活動指導者講習会	キャンプ用テントの取扱い他	41. 6.18	稲荷神社境内	青少年団体リーダー教員	25	〃　教委職員	
第4回歩け歩け運動	歩行活動	41. 7.10	大久保―楢井10km	一般	24	〃　徒歩の会リーダー	
スポーツ少年団本部委員会議		41. 7.12	高梁公民館	少年団体指導者関係学校教員	15		団結成の促進　各団活動状況について
スポーツ教室野外活動コース	キャンプ実技と話合い	41. 7.16 17	市内松原町陣山	青少年	60	教委職員	
〃　柔道コース	柔道指導	自41. 7.19 至41. 8.27	旧会議室	〃	34	体育指導委員　体協役員	
〃　剣道コース	剣道　〃	自41. 7.19 至41. 8.27	公会堂	〃	35	〃　〃	
民踊指導者講習会	民踊	41. 8. 5	市民会館大ホール	婦人	77	〃　婦人会レクリェーション部リーダー	
社会体育振興協議会	社会体育振興策についての会議	41. 8.18	市民会館第2会議室	体育指導委員体協役員	22		
青年ソフトボール大会		41. 8.21	高梁北小運動場	青年	96		
青年バレーボール大会		41. 9. 4	高梁高校運動場	〃	80		
第5回歩け歩け運動	歩行活動	41. 9. 8	高梁―成羽往復8km	一般	30	〃　徒歩の会リーダー　教委職員	
第13回中国五県剣道大会		41. 9.18	日新高校体育館	中国各県チーム	100		
高梁市長杯争奪県下高校卓球大会		41. 9.23 24	高梁高校体育館	県下高校	745		
第6回県下婦人バレーボール大会高梁会場		41. 9.25	日新高校体育館	備北地区婦人	140		
第6回歩け歩け運動	歩行活動，文化財見学	41.10. 9	松山城―大松山山道5km	一般	60	体育指導委員　文化財専門委員　徒歩の会リーダー	
第4回岡山県スポーツ祭高梁会場	マスゲーム	41.10.16	高梁北小運動場	児童，生徒	1,000		
	備北2市3郡剣道大会	〃	公会堂	生徒，一般青年	202		
	1市2郡柔道大会	〃	旧会議室	〃	193		
	市内ソフトボール大会	〃	高梁北小運動場	一般壮年(35才以上)	120		
	市内庭球大会	〃	高梁高校テニスコート	一般青年	120		
岡山県体力づくり推進歩け歩け運動高梁大会	歩行活動，文化財見学	41.11.13	市街地周辺文化財めぐり	一般	250	県派遣講師　文化財専門委員　体育指導委員	
剣道段級審査会		41.11.27	公会堂	〃	85		
市内学童相撲大会		41.12. 4	稲荷神社前相撲場	児童，生徒	84		
第8回歩け歩け運動	歩行活動	41.12.11	高梁―原田往復14km	一般	42	体育指導委員　徒歩の会リーダー	
体育指導委員会議		41.12.13	市民会館結婚式場控室	委員	10		昭和41年度半期事業　昭和42年度事業について
高梁上房駅伝競走大会		41.12.17	有漢―高梁21km	中学生	14チーム 126		
スポーツ教室スキーコース	スキー実技指導	42. 1. 8	花見山スキー場	一般青少年	60	体育指導委員　スキークラブ役員	
第9回歩け歩け運動	歩行活動，文化財見学	42. 1. 8	高梁―妙本寺17km	一般	36	〃　徒歩の会リーダー	
第1回駅伝競走大会		42. 1.22	方谷―高梁19.4km	一般青少年中学生	20チーム 161	〃　〃	
スポーツ教室スキーコース	スキー実技指導	42. 2. 5	花見山スキー場	一般青少年	105	〃　スキークラブ役員	
第10回歩け歩け運動	歩行活動，庭園見学	42. 2.12	高梁―木野山往復10km	一般	28	〃　徒歩の会リーダー	
第11回　〃	歩行活動，文化財見学	42. 3.12	祇園寺8km(山道)	〃	25	〃　〃	
体育指導委員会議		42. 3.22	高梁公民館	委員	12		昭和42年度予算及び事業計画
スポーツテスト		42. 3.26	高梁高校体育館運動場	市内少年団員	75	テスト判定員　スポーツ少年団本部委員	
市内民踊講習会		42. 3.27	市民会館大ホール	婦人会員，体育指導委員，小中学校教員民踊クラブ員	70	日本コロンビヤ専属教師	

2. スポーツ活動の現状

スポーツ活動の現状を述べる場合には，いろいろな方法があるが，ここでは最も具体的な形で展開されている行事を施設，組織，指導者，経費などの点からみると，高梁市の場合，市の教育委員会が昭和41年度に市体協と共催，または単独に行なった社会体育行事[表1]の総回数は36で，参加総人数は5,067名，全市民31,327名に対する参加率は16.2%で，行事の中で最も参加者の多かったのは，第4回岡山県スポーツ祭（於・高梁会場）のマスゲームで，昭和41年度の行事を種目・対象別に分類すると，一般16回，青年・少年11回，婦人会4回，競技会・大会12回，講習会3回，別に委員会が6回開かれていて，かなり組織化された形であるといえよう。行事の分布は7月・10月をピークに全体を考えた計画である。

利用されている施設は，学校を除けば大部分が野外で，第2次的条件が直接問題となっている。スポーツ教室が5コースもある。体育指導委員は12名が任命されており，実際に指導力のある男子11名，女子1名の若い人が中心である。

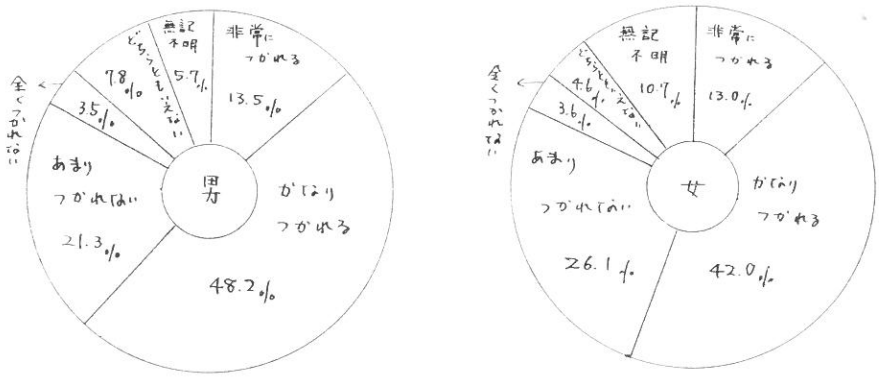
地域の社会体育行事の運営費は，1,044,000円で住民1人当り33円，行事への参加者1人当り206円となっている。以上高梁市のスポーツ活動の現状は，①競技会・大会を中心とした青年を除けば，だれでも参加し楽しめるようであるが種目が限定されている。②野外的活動への志向がうかがえる。③他の地域に職場を持つものの多くは，この地域のスポーツ活動では欲求を充足できず，他の地域での活動にその場を求めようとしているのではないだろうか。などの点にしぼられるとみてよかろう。

3. 調査結果の要約

(1) 生活と生活意識

労働時間は，農業・商業（自宅営業）ともに相当長く，1日の自由時間は，平均2～3時間程度，通勤者で3～4時間程度とかなり少ない。したがって1日の生活における疲労について見ると，約半数の人々が〝かなり疲れる〟と答えている。これは最近生活条件が改善[図1]

第4図　市民の疲労について



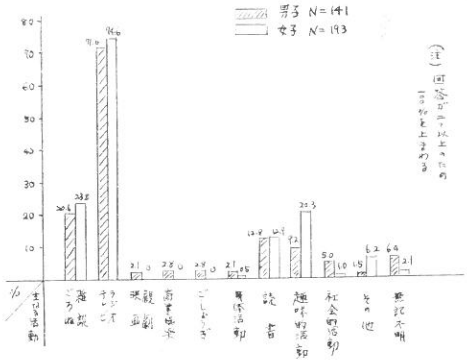
されたとはいえ，その多くは，依然として強い肉体労働をよぎなくされているからではないだろうか。そのためか，1日の余暇時間はきわめて少なく，その内容[図5]は消極的，受動的なものになっており，余暇時間の過す場所及び仲間も，家（居住）中心の，1人または家族で，テレビ・ラジオが主なものになっている。その点で人々の生活における活動領域は，内容・範囲ともに，かなり限定されたものになっているといえよう。生活の意識面では，豊かではないにしても地域生活に安住する傾向があるようだが，生活の合理化が行なわれるよう

になるにつれて，次第に進歩的・合理的な傾向も高まってきている。

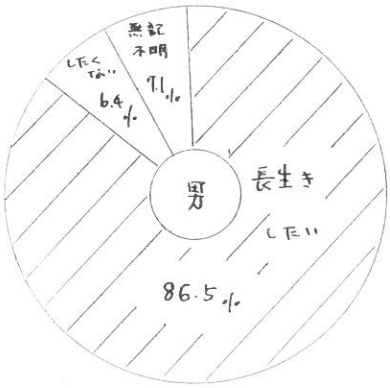
(2) 健康生活

年々食生活や栄養状態が改善され，国民の体位も向上するようになったとはいえ，長寿を願う人々の過半数の者は，時として襲い来たる"病"(図6)"傷外"から身を守るためか，健康法を実施しているようである。その健康法の内容は(表2)，消極的なものであって，食事療法(図7)薬や注射などである。

第5図　自由時間の過し方



第6図　長生きについて



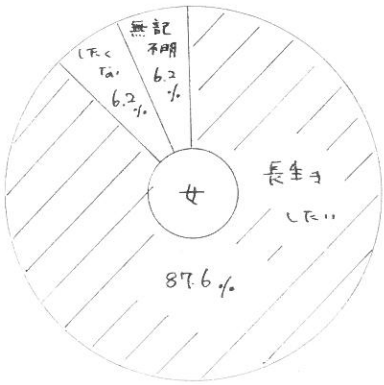
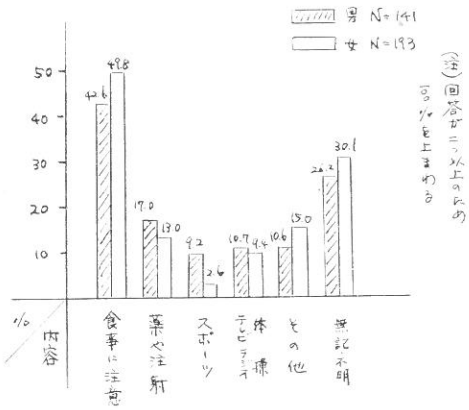


表2　健康法

性別＼内容 N	実施している	してない	無記・不明
男　141	72.3	22.0	5.7
女　193	69.4	26.9	3.7

第7図　健康法実施の程度



(3) 運動やスポーツ

表3 運動やスポーツ活動について

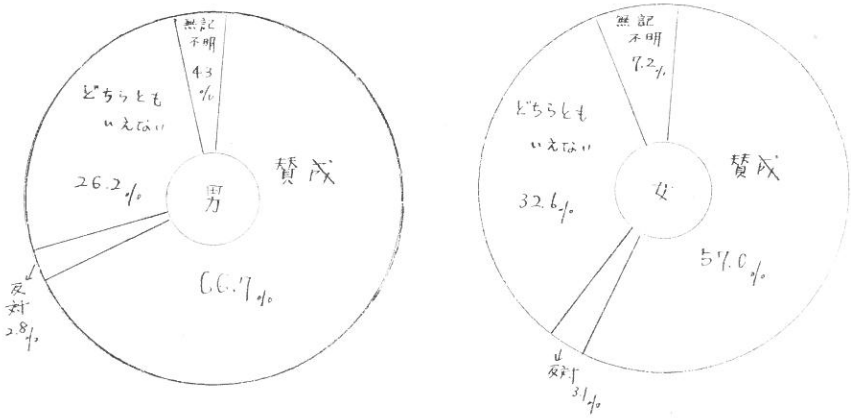
性別	N	運動の好き嫌い				運動やスポーツの実施状況				
内容 / 項目分類		好き	嫌い	どちらともいえない	無記・不明	たびたび	ときどき	ときたま	しない	無記・不明その他
男	141	56.7	9.2	30.5	3.6	6.4	20.6	26.2	29.8	17.0
女	193	41.0	11.9	38.3	8.8	3.6	10.9	24.3	35.7	25.5

市民のスポーツ活動への志向性は，男子56.7%，女子41%で積極的なからだづくりや，生活内容としてのスポーツをとりいれようとしているが，(表3) その実際面はきわめて貧弱で，欲求と現実の実際的活動との間にかなりのズレがあるようだ。この欲求と現実のズレを生じさせている何かを分析する必要があるように思える。そこでとくにこの問題を次の社会体育振興と関連して見よう。

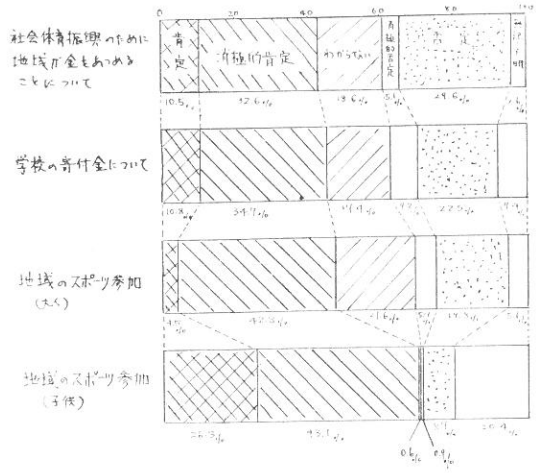
(4) 社会体育振興

市の社会体育振興については，過半数の者が肯定的であり，また振興の方策についても消極的ながらも肯定している。(図8) しかし実際面になると，かなり消極的で，社会体育計画への(図9) 要望や意見になると，具体的な意見をもつものは男子19.2%，女子10.9%と無関心の層が多いことを示している。(図10) このことは，スポーツ活動の推進力となる体育指導委員制度にも現われ「よく知っている」という答は，わずか7.8%，またこの裏付けとなるスポーツ振興法の認知についても同様なことがいえ，(図11) 大多数の者が「知らない」と答えている。しかし市民の約半数近くの人達が行事について認知している(図12)ことは非常な強みである。(表4)

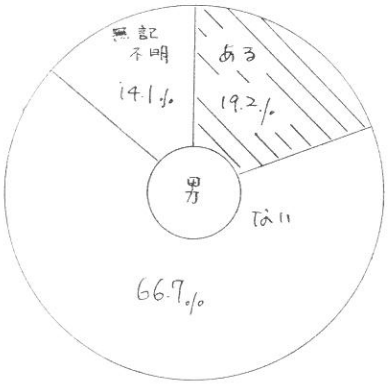
第8図 市町村の社会体育振興について



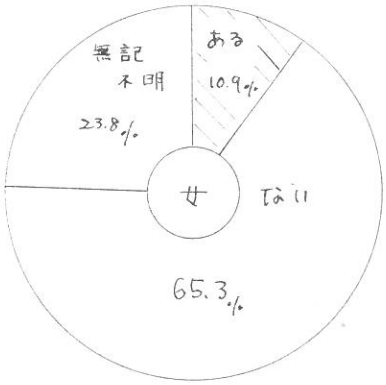
第9図　市の社会体育振興策について



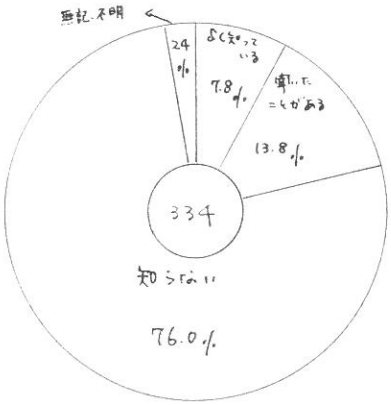
第10図　社会体育計画への要望や意見について



第11図　体育指導委員制度の認知



第12図　スポーツ振興法の認知



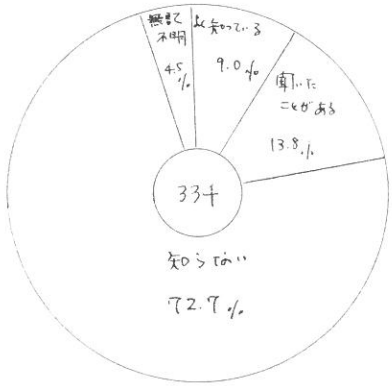


表4　市行事の認知度とその通路

項目分類 / 行事名 (N=334)	認知度			認知の通路						
	知っていた	知らなかった	無記・不明	新聞	有線放送	回覧板	口づて	子供を通して	部落会	無記・不明その他
歩け歩け運動	88.3	9.9	1.9	34.7	11.7	26.0	12.0	3.0	0.9	14.7
スポーツ教室	35.9	58.4	5.7	12.3	5.1	8.9	6.6	1.7	0.6	66.5
第6回婦人バレーボール大会	37.4	59.3	3.3	15.3	2.1	6.9	7.6	0.3	1.8	67.1
第4回岡山県スポーツ祭	46.1	49.1	4.8	30.2	1.8	4.1	4.8	1.8	0.6	57.2
第1回高梁駅伝競走	55.4	41.9	2.7	14.4	3.0	3.0	20.1	9.9	0.6	50.0
市内民踊講習会	42.5	53.6	3.9	3.6	6.3	18.2	12.3	0.6	0.9	62.0

Ⅳ　ま　と　め

高梁市は，伯備線の宿駅に発達の起源をもつ典型的な中都市で，産業構造は，小零細の商店を中心に，その双翼には，製造業・農山村の第二次・第一次産業が補佐的機能を果している。そして社会増はほとんどみられない。その点で停滞的な地域社会といえよう。そしてこのことが，市の発展を遅らせている原因であるともいえよう。そこで，このような地域的宿命を充分考慮した上で，現状を概観し，問題点を浮彫りしようとするものである。住民の運動やスポーツを振興するためには，まず次のようなことを考えなければならないだろう。この地域社会の特性としての，生活が充分に分化していないということ，それにともない生活にゆとりのないこと，またこれらから生ずる労働強化をどのようにしてゆくかということになろう。その一つの方向として，小零細商店における経営の近代化と合理化があげられよう。これらの問題をとりあげないかぎり，地域住民にさしあたっている生活水準の向上や，それにともなう生活内容を変えることは出来ないだろう。

現実における，市当局の体育やスポーツ振興施策に対する地域住民の無関心の層をどのようにしたらよいかである。無関心層を生み出す原因はいろいろと考えられる。一つは，地域住民の体育・スポーツに関する意識が低いことかも知れない。あるいはまた一方では，市当局が作り出した地域体育計画が不適合なのか，さらにもっと根本的な次元で考えるならば，市民は家族中心で，体育・スポーツ活動の問題に何一つ考えを持たないのかも知れない。これらの原因のいずれかが問題点で，これらがどのように関連してこのような状態にあるのかを分析する必要があろう。そのためには，地域住民の少人数ではあるが，〝だれでも楽しく気軽るに参加出来る運動会のようなもの〟〝野球大会〟〝プールの建設〟などの具体的な要望や意見を述べている。これらを聞き取り，また潜在的な要望や意見をも聞き取ることに努力し，できうれば，これらの要望や意見を加味してゆくことも必要なことであろう。いずれにしても高梁市のこれらの問題は，ただ単に，体育やスポーツの次元ではどうにもならない問題のようであるが，大規模なマスタープランの中で，生活内容の問題としての運動やスポーツを考えてゆくところに未来への道が開けることになろう。

市の予算についてみれば，総予算の約15%が教育費，その教育費の約23%が社会教育関係

で，この半分が社会体育関係費とみれば，地域住民の1人当りわずか30円程度である。このような少ない予算でかなり活発に活動しているようだが，よほどでない限り，市当局の社会体育への大きな期待は無理なことではなかろうか。

次に活動の内容であるが，大部分が行事中心となっている。スポーツ活動が普及しつつあるこの地域において，啓蒙をかねた行事中心主義もよいが，身軽るに地域住民が参加できるレクリェーション的なものも期待したい。そして一方では，社会教育と関係して，人々の生活内容を変えてゆくために近郊都市との交流もこの地域の特性として必要があるのではないだろうか。

運動やスポーツ活動にとって，第2次的条件である施設・用具は，その場所的，物的条件として整備されていることがスポーツ推進の要素である。その点で，スポーツ活動の内容である野外的活動が増大していることは全国的傾向で，とくに野外活動の施設の整備は重要であり，根本的に国や県においてなんらかの対策が考慮されなければならないが，地域社会においてできる範囲のものは，整備していく必要があろう。

高梁市における社会体育は，活動の基盤を体育指導委員にたよっている。体育やスポーツ活動の社会的基盤が発展の途上にある現段階では，これらの手段・方法でよいのかも知れないが，問題がないわけでもない。これらの活動が盛んになったとしても，それらが一部の参加者の人々によってもたらされたものであっては，市民の多くは，スポーツ活動から脱落しているということになってくる。これらの人々は，スポーツに対する要求を満たすために，市民全体の福祉向上をめざす社会体育へ脱皮していかなければならないだろう。また青年人口の減少，岡山市・倉敷市への通勤・通学者の増大，職業分化による青年層の異質性の増大などは，地域社会の機能を縮少しているだけでなく，むしろ崩壊させているといってもよかろう。さらに人口動態からみても，高校卒の20～24才までの青年層にあるものが男女ともいちじるしく減少している。そしてこの年令層にあるものの職業分化が社会体育やスポーツについての考えを多様化しているため，地域的にまとまって行動することを困難にしている。また青年を対象にした社会体育行事への参加者が少ないのは，以上の理由からだともいえよう。つまり高梁市の社会体育の活動の発展をさまたげている要因は，1. 地域的に他都市と隔離されていること。2. 施設・用具がスポーツ人口とアンバランスであること。3. 担い手の不足などとみてよかろう。

以上現段階では，まだ充分に資料が整ったとはいえない。したがってこの小論はまだ仮説の段階を出ていない。今後さらに資料を補充し，修正を加えるとともに大都市にみられる社会体育の機能の問題まで発展させたいと考えている。

参考文献　社会調査の方法　福武　直
参考文献　概説　社会体育　栗本　義彦
参考文献　スポーツの社会学　生活科学調査会
参考文献　研究紀要第10号　岡山県立短期大学